記者発表資料

令 和　８年 １１月　２日
国土交通省東北地方整備局
新 庄 河 川 事 務 所

施工環境の改善や担い手不足解消を目指して「遠隔・自動化建設機械の現場見学会」を開催します

※ **世界初の試み**として、共通制御信号を用いた自動化建設機械を現場導入します。

国土交通省では、建設現場の生産性向上や働き方の変革等を目的として、i-Construction2.0（以下 i-Con2.0）を推進しています。また「砂防関係事業における遠隔・自動施工の推進委員会」中間とりまとめにおいて、砂防分野では平時から遠隔・自動施工を推進し、生産性の向上や施工環境の改善等を図ることを目的としています。

今回、当事務所管内の砂防工事において、i-Con2.0 の目標の一つである「施工のオートメーション化」の一環として、遠隔・自動化建設機械の普及促進に向けた現場見学会を開催いたします。

今回の試験施工における稼働予定の建設機械は下記のとおりです。

- 立谷沢地区渓流保全工工事（遠隔施工）
  受注者：（株）安藤建設
  ① 遠隔操作バックホウ：1 台　②大型ダンプトラック：1 台
- 松沢地区管理用道路工事（自動化施工）
  受注者：（株）新庄砕石工業所
  ① 自動化施工バックホウ：1 台　②大型ダンプトラック：1 台

記

■ 実施内容：遠隔・自動化建設機械　現場見学会
■ 開催日時：令和 8 年 11 月 17 日（火）、18 日（水）、19 日（木）の３日間
　　各日　午前の部 10：00～11:40　午後の部 13:30～15:10
■ 開催場所：山形県東田川郡庄内町立谷沢地内（詳細は別添のとおり）
■ 事前申込：11 月 13 日（金）17 時まで、別添申し込みフォームからお願いします。
　※　荒天・災害対応により延期する際は、お申し込み頂いたアドレスへご連絡します。
　※　駐車場所に限りがありますので、乗り合いでのご来場にご協力ください。

＜発表記者会：山形県政記者クラブ・東北建設専門紙記者会
・新庄新聞放送記者会・山形建設業界専門紙＞

〔 問い合わせ先 〕

■国土交通省 東北地方整備局 新庄河川事務所
副 所 長（砂防）　飯野　俊一　TEL：0233-22-0251（代表）（内線 205）
工務第二課長　　小幡　養弘　TEL：0233-22-0256（代表）（内線 321）

開催場所及び集合場所



地理院地図URLhttps://maps.gsi.go.jp/#15/38.666815/140.004187/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f0

※　集合場所（現場事務所）から工事箇所までの移動は、自車により極力乗り合いのうえ、移動いただくようお願いいたします。

申し込み方法

申し込みフォーム
https://forms.gle/tReZe3gDZAxREkys5

遠隔・自動化施工実施概要

試験施工の目的と背景

国土交通省では、i-Con2.0「施工のオートメーション化」の当面目標において「砂防現場における遠隔施工の利用拡大」とされています。また「砂防関係事業における遠隔・自動施工の推進委員会」中間とりまとめにおいて、砂防分野では平時から遠隔・自動施工を推進し、生産性の向上や施工環境の改善等を図ることとしています。

これらを踏まえ新庄河川事務所では、遠隔・自動化建設機械による土砂撤去の試験施工を行い、活用で得られた効果等を地域の建設会社に共有し普及促進を図ります。

遠隔施工の概要（立谷沢地区渓流保全工工事）

昨年度の遠隔施工実施において操作時のフィードバック（振動、傾斜、音、抵抗感など）が無いことや距離感が掴めない等の課題解決を目的としマシンコントロールを併用した遠隔施工を行い、過堀防止など距離感の改善を試行することで現場における有用性を確認し、適用現場の拡大につなげます。




遠隔操作の様子


遠隔ロボットの様子

後付けロボットにより汎用性向上が期待される。

自動化施工概要（松沢地区工事用道路工事）

掘削と積込みを自動化施工で行い、現場適用への課題や改善点について確認します。

昨年度の課題を踏まえ今回実施する自動化施工は、建設機械がレーザー（LiDAR）で周囲の状況を把握し、決められた作業を自動で行う施工方法で、OPERAという技術を用いて実施します。人は機械を直接操作せず、作業範囲の設定、実行の指示、安全の監視を担います。今回の取組は、自動化施工の有効性や課題を明らかにするとともに、平時の現場で得た技術や運用経験を蓄積し、将来の砂防工事や災害時の迅速な対応につなげます。

※OPERAとは

土木研究所が提供する自律施工技術の研究開発用オープンプラットフォームです。メーカーごとに異なる建設機械の制御を「共通制御信号」でつなぎ、開発した技術をほかの機械にも展開しやすくなります。

※世界初の試み

自動化建設機械と共通制御信号を用いた現場導入は世界初の試みとなります。




自動化建設機械